

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
30	共同研究	遠藤 勝祐 (NPO法人三内丸山縄文発信の会)		円筒土器文化における集落の実態をさぐる ー時期差・地域差・存続期間の比較研究ー 円筒土器文化圏の集落の特徴について考古学的属性を詳細に整理・検討することによって理解する。	23
	個人研究	採択なし			
29	共同研究	遠藤 勝祐 (NPO法人三内丸山縄文発信の会)		円筒土器文化における集落の実態をさぐる ー時期差・地域差・存続期間の比較研究ー 円筒土器文化圏の集落の特徴について考古学的属性を詳細に整理・検討することによって理解する。	22
	個人研究	高木麻里帆		三内丸山遺跡の埋設土器に付加される人為的行為 ー二次整形痕を中心にー 三内丸山遺跡において、通常の土器が埋設土器として埋められるまでの過程で行われた人為的行為を整理することによって、当時の葬制を議論するための一助とする。	
28	共同研究	中塚 武 (総合地球環境学研究所)	4人	三内丸山遺跡出土木材の酸素同位体分析 三内丸山遺跡出土木材の酸素同位体分析に炭素14年代を併用することで、相対的・絶対的な年代を検討する。さらに降水量の変動から当時の気候変動を復元する。	21
	個人研究	荒川 隆史 ((公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)		縄文時代の木柱からみたクリ材の加工技術とクリの生育環境ー三内丸山遺跡を中心にー クリ木柱の考古学的調査を通して伐採・分断・平坦加工などの加工技術を検討し、更に幹材から生育環境を明らかにする。	
	個人研究	三内丸山遺跡保存活用推進室		第40次発掘調査において確認されている水成堆積層の成因や形成時期、さらに当時の環境を明らかにする。	

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
27	共同研究	辻 誠一郎 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)	6人	三内丸山遺跡の集落景観の復原と図像化 三内丸山遺跡の土層(地質)層序を確立し、これにもとづく地形情報の解析によって地形改変史を明らかにする。さらにさまざまな施設とクリ林などの文化景観の空間分布を明らかにし、地形情報を統合した集落景観を図像化する。	20
	個人研究	中村 由克 (明治大学黒曜石研究センター)		北陸系石材の三内丸山遺跡への波及の研究 縄文時代の石器・装身具には広域に流通する石材があり、当時の人々の交流を知ることが出来る。磨製石斧や装身具に使用される北陸原産の透閃石岩(蛇紋岩とされた)、滑石、ヒスイが三内丸山遺跡に波及した実態調査を目的とする。	
	個人研究	三内丸山遺跡保存活用推進室		土器附着炭化物の炭素・窒素同位体分析 三内丸山遺跡からは、円筒土器文化期全体を含む前期中葉～中期末葉の土器が出土している。しかし、各期の土器については、何を煮沸したのかは明らかではない。土器附着炭化物を分析し、それを明らかにすることを目的とする。	
26	共同研究	藤川 直迪 (NPO法人三内丸山縄文発信の会)	6人	円筒土器文化総合研究 昨年度構築したデータベースを基に、各遺跡の詳細情報をデータとして取り込むことで、より詳細なデータベースを構築する。	19
	個人研究	高橋 哲 (青森県埋蔵文化財調査センター)		盛土出土の石器組成についてー北盛土出土石器を中心としてー 円筒上層式を中心に分析を行うことで、データの空白期間を埋め、三内丸山遺跡の北盛土を中心に円筒式土器文化の石器組成について、用途の観点から論じる。	
	個人研究	株式会社パリーノ・サーヴェイ		土壌微細形態学的分析 今年度の発掘調査地点において、土壌微細形態学的分析を行い、その結果を踏まえた上で、遺構やその周辺の堆積環境を検討する。	
25	共同研究	藤川 直迪 (NPO法人三内丸山縄文発信の会)	6人	円筒土器文化総合研究 昨年度構築したデータベースを基に、各遺跡の詳細情報をデータとして取り込むことで、より詳細なデータベースを構築する。	18
	個人研究	小林 正史 (北陸学院大学社会学部准教授)		縄文土器の紐積み方法と素地選択の復元、および、それらの技術を選択した理由の解明 縄文土器の紐積み方法について、仮説を提示し検証を行いながら、素地づくり行程と紐積み行程の結びつきを明らかにする。	
	個人研究	永瀬 史人 (青森県埋蔵文化財調査センター)		北東北における円筒土器文化の変容過程に関する考古学的研究 北東北に認められる縄文時代中期中葉の円筒上層式土器文化から後葉の大木系土器文化へと移り変わっていく様相を、遺構および土器のあり方から考察し、文化の受容と背景、変容の実態を明らかにする。	

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
24	共同研究	藤川 直迪 (NPO法人三内丸山縄文発信の会)	6人	円筒土器文化総合研究 円筒土器文化の集落遺跡を対象に、悉皆的な報告書の内容確認を通じて、時期や遺構・遺物に関するデータベースを構築する。	17
	個人研究	小林 謙一 (中央大学文学部准教授)		円筒土器文化における文様割付の研究 三内丸山遺跡出土の円筒下層a式～上層式・榎林式・最花式の土器の文様割付、特に口縁部・胴部文様帯における区画の割り振りについて検討する。	
	個人研究	小畑 弘己 (熊本大学文学部教授)		三内丸山遺跡からみた貯蔵食物害虫 <i>Sitophilus</i> 属の生態と進化過程の研究 三内丸山遺跡における本類昆虫の研究を通じて、これまで発見された縄文圧痕コクゾウムシ類が本当にコクゾウムシであるかの検証、さらに家屋害虫としての生態や進化の過程を探る。	
23	共同研究	小畑 弘己 (熊本大学文学部教授)	2人	土器圧痕・生体化石資料の比較検討による縄文集落における植物性食料の貯蔵形態と家屋害虫の実証的研究 植物種子や害虫などの土器圧痕資料及び生体化石の検出・分析により三内丸山遺跡における植物性食料の貯蔵形態を復元し、本遺跡における食用植物利用の具体的な姿を明らかにする。	16
	個人研究A	安 昭炫 (東京大学大学院博士課程)		三内丸山遺跡の盛土場の形成プロセスの解明－人為堆積土形成のプロセスの研究開発－ 自然界で生成する森林土壌等とは異なる三内まり山遺跡の盛土場土壌において、放射性炭素年代測定等を行いながら、盛土場形成プロセスを明らかにする。	
	個人研究B	佐々木 由香		縄文時代のマメ類利用の研究－三内丸山遺跡を中心として 三内丸山遺跡を中心とした県内でこれまで報告されたマメ類の炭化種子の再同定と大きさの再検討、整理を行い、縄文時代のマメ類の利用方法や生業の中での位置づけを明らかにする。	
22	共同研究	小林 克 (秋田県埋蔵文化財センター)	7人	三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究（その2） 三内丸山遺跡の「盛土遺構」を中心に、縄文時代前期から中期における円筒土器文化の盛土遺構形成の実態解明とその広がり、及び後期から晩期の東日本縄文文化での盛土遺構の地域性、貝塚と盛土の関係を解明する。	15
	個人研究A	國木田 大（東京大学大学院助教）		三内丸山遺跡の盛土の形成過程とその場所性の解明 三内丸山遺跡において、調査で得られた木炭の放射性炭素年代測定及び樹種同定により、盛土形成の詳細な年代や性格の解明を試みる。	
	個人研究B	菅野 智則（東北大学文化財専門職員）		東北地方北部における縄文中期後半集落に関する基礎的研究 青森県下の縄文時代中期後半集落に関するデータベースを作製する。竪穴住居跡の分析については、形態や遺構群の空間配置などの特徴や時期的変遷、土器形式などを通して当時の集落構造について把握し、大木式系集落遺跡と三内丸山遺跡の特徴について、相対的に研究・分析する。	

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
21	共同研究	小林 克 (秋田県埋蔵文化財センター)	5人	三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究 三内丸山遺跡の「盛土遺構」を中心に、縄文時代遺跡の特徴としてその形成プロセスや意義に接近することを目的とする。	14
	個人研究	高橋 哲 (株)アルカ)		円筒下層式土器期の石匙の使用痕研究 三内丸山遺跡No.6鉄塔地区出土の円筒下層式期の石匙使用痕を観察し、対象物と想定される草本植物由来の光沢が石匙全体に占める割合を算出し、あわせて中期の石匙との比較検討も行う。	
	個人研究	川島尚宗 (筑波大学大学院生)		縄文時代のマツリと盛土遺構-東北地方を事例として- 狩猟採集民社会における集落景観の改変(盛土構築など)が、どのような社会的意義を持つのかを、三内丸山遺跡の資料を中心に類例比較・文化人類学の援用を用いて明らかにする。	
20	共同研究	前川 寛和 (大阪府立大学教授)	1人	岩石考古学の構築：岩石学の手法を用いた縄文石器の解析 三内丸山遺跡出土の石器・装飾品に焦点を当て、現代岩石学的手法を導入・駆使して解析し、縄文人の知力、当時の生活状況に関わる情報を可能な限り引き出し、その有効性を検証することで、考古学と岩石学との新たな境界領域分野としての岩石考古学の構築を目指す。	13
	個人研究	上條 信彦 (九州大学大学院生)		円筒土器文化圏における食料加工技術の研究-礫石器の使用痕運席及び残存デンプン粒分析を中心に- 円筒土器文化圏には、扁平打製(磨製)石器を伴う独特な食料加工技術が存在しているが、これらの使用痕分析と他の関連する石器との比較を行い、扁平石器の機能・用途を明らかにすることによって、円筒土器文化圏の食料加工の実態を解明する。	
19	総合研究	辻 誠一郎 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)	6人	縄文中期から後期初頭の環境文化急変の解明-三内丸山遺跡を中心に- 円筒上層式から十腰内式までの時間推移を高精度年代測定によって捉え直し、クリを軸にした文化体系からトチノキを軸にした文化体系へ急変する文化史の過程とその生態基盤である環境史の過程を生態系復元と年代軸確立によって解明する。	12
	自由課題研究	合地 信生 (知床博物館総務課長)		石斧製作石材(原石・擦り石・石刀)の円筒土器文化圏における流通 三内丸山遺跡出土の石斧製作石材(原石、擦り石、石刀)について、その産地を岩石薄片による顕微鏡観察とX線分析により明らかにし、円筒土器文化圏における流通システムを推察する。	
18	総合研究	石川 隆二 (弘前大学農学生命科学部助教授)	4人	北の谷遺物による縄文環境と植物利用の解析 三内丸山遺跡の植物利用を同時代からの歴史を持つ内蒙古興隆溝遺跡並びにインダス文明の遺跡であるハラッパ遺跡における出土物との比較を行いながら、共通して出土する植物種子に焦点をあて、同時並行的な植生環境並びに植物利用の実態を検証する。	11
	自由課題研究	渋谷 綾子 (総合研究大学院生)		残存デンプン分析からみた三内丸山遺跡の植物食 -加工・利用技術の発展と展開- 三内丸山遺跡から出土した食物加工具や土壌堆積物の残存デンプン粒を抽出し分析することによって、加工具の用いられた当時の植物質食料を復元する。さらに、文献資料や民俗例に基づき、三内丸山遺跡で利用された植物の種類や加工技術を解明する。	

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
17	総合研究	鈴木 三男	6人	青森県の縄文時代遺跡におけるウルシ植物の存在とウルシ利用の実態の考古植物学解明 縄文時代前期から晩期までの青森県を中心とした東北地方北部におけるウルシ植物の時空的存在の実体を総合的に解明し、縄文の漆文化研究のための基礎を提供する。	10
	自由課題研究	村本 周三		三内丸山遺跡台地北西端（第27次調査区付近）の遺物包含層形成過程の解明－堆積状況の観察と出土炭化物のAMS14C年代測定－ 遺物包含層の断面観察と採取した炭化物（木炭、種子等）のAMS14C年代測定と土層観察を行うことにより包含層の形成過程を明らかにする。	
16	総合研究	羽生 淳子	6人	世界の狩猟採集民研究からみた三内丸山遺跡－文化景観の長期的変化とそのメカニズム－ 三内丸山遺跡における生業・集落・社会の特徴、および遺跡機能の長期的変化を明らかにするとともに、そのような変化が生じたメカニズムを考察する。	9
	特定課題研究	河村 日佐男	1人	木柱のC-14測定による年代の推定 柱孔内木柱の放射性炭素を測定し、使用された木材の伐採年代を求め、該当区の住居時期の推定等に資する。	
	自由課題研究	合地 信生		三内丸山遺跡出土石斧の産地と流通について 三内丸山遺跡出土石斧の石材産地の予察的調査で、産地の可能性の高かった北海道中央部（神居古潭構造帯）の石材の顕微鏡観察とX線による鉱物の同定と化学組成分析を行い、岩石学的な同一性の証明を行うとともに、流通経路を探る。	
		吉川 純子	1人	縄文時代東北地方北部のウルシ利用の調査 三内丸山遺跡ほか、東北地方北部の遺跡から出土したウルシ属内果皮の壁断面の電子顕微鏡による観察を行い、種を同定することで縄文時代における東北地方のウルシの育成範囲とその利用の可能性を探る。	
	赤沼 英男	1人	出土資料の組成からみた三内丸山遺跡縄文時代中期における塗装技術の流入と展開 縄文時代中期の遺構から出土した塗装土器の、型式学的分類結果と塗装技術に関する自然科学的調査結果を多面的に検討し、三内丸山遺跡の縄文時代中期にみられる塗装技術多様化の要因を明らかにする。		

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
15	総合研究	辻 誠一郎	7人	三内丸山遺跡の生態系史研究 ―とくに円筒土器文化の形成と変容・終焉― 三内丸山遺跡を中心に円筒土器文化が形成される生態系的基盤、形成要因、変容の要因、そして終焉の要因の解明を行なう。	8
	公募研究 (共同)	西田 泰民	5人	縄文土器・土製品の分析科学に基づく情報の解明 ―円筒土器様式における土器・土製品の製作法と使用法― 三内丸山遺跡を含む円筒土器様式圏の土器・土偶を分析し、具体的な製作法や使用法を推定する。	
	公募研究 (個人)	小林 謙一		付着炭素物のAMS炭素14年代測定による円筒土器の年代研究 三内丸山遺跡出土土器の付着物を採取し、AMS法による年代測定を行ない、暦年較正から実年代を検討する。	
		羽生 淳子		ジェンダー考古学からみた縄文土偶と文化的景観 三内丸山遺跡をはじめとする多数の土偶を伴う遺跡と、そうでない遺跡の性格の違いを、ジェンダー考古学と文化的景観研究の観点から考察する。	
		稲野 裕介		円筒土器に伴う岩偶の研究 ・津軽地方や北辺の渡島半島の岩偶の状況観察。・三内丸山遺跡の岩偶の資料化と発生と終末、変遷過程の追求。・米代川流域を含めた周辺地域の各種伴出遺物の組み合わせの研究	
	松本 建速		三内丸山遺跡出土土器胎土成分の時代的变化に関する研究 ―円筒土器下層a式から大木10式土器まで― 三内丸山遺跡では1500年以上にわたり土器の胎土成分がほぼ同じであったことから、どの時期でも土器制作者が目指した胎土は同じであったという仮説の検証。		

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
14	総合研究	鈴木 三男	10名	縄文時代におけるクリ資源利用と資源再生に関する総合研究(2) 縄文人がクリ林及びクリの樹木とどのような関係を持ち、いかに活用してきたのか、縄文社会を支えた主要な木材資源及び食糧資源の両面について解明する。	7
	公募研究(共同)	石川 隆二	3名	DNA考古学による縄文植生の再生 三内丸山遺跡から出土した炭化植物遺物の種の同定を行って栽培種が含まれていることを明らかにし、縄文植生の再生を行う。	
	公募研究(個人)	山田 康弘		三内丸山遺跡における墓域の基礎的検討 -階層性の有無を中心に- 研究担当者がこれまで集成した3000体の縄文人骨の資料と三内丸山遺跡の出土資料を比較検討し、三内丸山遺跡の墓域のあり方を階層性の有無を中心に考察する。	
		谷口 康浩		竪穴住居型式の分析からみた三内丸山遺跡の空間構成と変遷 円筒土器文化における縦穴住居跡の形質を数量的に把握し、統計学的分析(多変量解析)によって住居型式を客観的に分類する基礎的作業を行う。	
		茅野 嘉雄		円筒土器様式の地域性と周辺土器様式との接触について 円筒土器の胴部文様に使用される縄文原体の種類・構造・施文方法を検討し、円筒土器様式の独自性と様式圏内での地域差を明らかにするとともに土器様式同士の接触様相を明らかにする。	
		小笠原 雅行		縄文時代中期「円筒上層式土器」の変遷と地域性 円筒上層式土器の編年を見直すとともに、円筒土器文化圏全体での上層式土器の地域性の存在を浮かび上がらせ、三内丸山遺跡がどのように位置づけられるかを検討する。	
		赤沼 英男		円筒土器文化圏における石器ならびに土器表面加工技術に関する研究 -三内丸山および周辺遺跡を中心として- 三内丸山遺跡における色材料の製作方法・使用状況を明らかにし、縄文時代前期から中期における鉱物資源の活用、色材料の流通及び製作技術の伝播とその変遷を解明する。	
松本 建速		円筒土器文化圏内における土器・土偶の移動に関する研究 津軽海峡周辺の円筒土器文化圏の土器・土偶等の胎土、各遺跡周辺の粘土の化学成分を分析し、土器等の移動、非移動を明らかにして、同文化圏の人々の交流を考える。			

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
13	総合研究	辻 誠一郎	5名	三内丸山遺跡の生態系史の解明 三内丸山遺跡と同じ水準・高精度での他の重点的な遺跡・遺物の年代と生態系の枠組みの解明と対比を行い、植物資源利用を自然・文化史融合の縄文民俗植物学の構築を図り、三内丸山縄文植物誌の編纂を行う。	6
		鈴木 三男	9名	縄文時代におけるクリ資源利用と資源再生に関する総合研究 縄文人がクリ林及びクリの樹木とどのような関係を持ち、いかに活用してきたのか、縄文社会を支えた主要な木材資源及び食糧資源の両面について解明する。	
	公募研究 (共同)	赤沼 英男	4名	三内丸山遺跡における色材料の製作と使用に関する研究 三内丸山遺跡における色材料の製作方法・使用状況を明らかにし、縄文時代前期から中期における鉱物資源の活用、色材料の流通及び色材料製作技術の伝播とその変遷を解明する。	
		石川 隆二	3名	DNA考古学による三内丸山縄文農耕の検証 三内丸山遺跡における種の同定を行って栽培種が含まれていることを明らかにすることで縄文農耕の検証を行う。	
	公募研究 (個人)	木村 勝彦		縄文時代のクリ材の年輪解析による生育環境及び高精度編年の試み 三内丸山遺跡出土木柱の年輪解析を行い、縄文時代のクリがどのような生育環境にあり、どのような管理がなされていたのかを明らかにする。また、標準年輪パターンを製作し、今後の同時期のクリ材による編年を行うためのデータベースとするとともに、北の谷の堆積物の高精度編年を試みる。	
		細野 衛		三内丸山遺跡とその周辺域の堆積土層の様相 三内丸山遺跡および周辺域に累積する黒色・褐色土層の生成環境を明らかにし、土層に関与した人間活動と土層に記録された生成環境を時系列に解読する。	
		松本 建速		三内丸山遺跡粘土採掘坑粘土と遺跡出土土器の成分分析 三内丸山灰を含めその上下の土層と遺跡出土土器、土製品の成分分析を行い、遺跡内の人々の活動と「三内丸山灰」層との関係を考える。また、遺跡出土の土器や土製品には様々な地域からの移入も考えられるため、遺跡周辺だけでなく、津軽海峡周辺各地の粘土層、土器、土製品の分析を行う。	

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
12	共同研究 (自然分野)	辻 誠一郎	6名	三内丸山遺跡における人と自然の交渉史Ⅲ 三内丸山遺跡とその周辺における縄文時代とその前後の生態系を描き出し、人間と環境の相互作用系を具体的に復元する。	5
	共同研究 (技術分野)	鈴木 三男	9名	縄文時代のクリ材利用の技術史 縄文人がクリ材及びクリの樹木とどのような関係を持ちそして如何に活用してきたのかを縄文社会を支えた主要な木材資源及び食糧資源としての両面から明らかにする。	
	共同研究 (社会分野)	小山 修三	8名	三内丸山遺跡から見た遠近感 円筒土器文化圏における土器、あるいはそれ以外の属性による地域性を検討し、集落間・地域間のネットワークの時間的な変遷や広がり及びその要因を考察する。	
	公募研究 (自然分野)	木村 勝彦		縄文時代のクリ材の年輪解析による高精度編年の試み 三内丸山遺跡を中心に遺跡や埋没林のクリ材の年輪解析により縄文時代のクリ材の高精度編年を目指すとともに、標準年輪パターンを作成を目的とする。	
	公募研究 (技術分野)	赤沼 英男		三内丸山遺跡における色材料の使用状況に関する基礎的研究 三内丸山遺跡から出土した色材料、主として赤色のものの組成を自然科学的方法により解析し、それらが利用された時期や製品の考古学的位置づけをも加味しながら、三内丸山及びその周辺遺跡における色材料の利用状況についての変遷を明らかにすることを目的とする。	
	公募研究 (社会分野)	阿部 義平		縄文時代の道と記念墓列の研究 縄文時代の代表事例等の整理と比較による論理化、弥生時代・古墳時代の造成道等との比較研究、巨石文化や初期農耕社会の事例との比較研究により、三内丸山事例の復元と意義を固化表現する。	

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
11	共同研究 (自然分野)	辻 誠一郎	8名	三内丸山遺跡における人と自然の交渉史Ⅱ ①古環境の分析により、三内丸山遺跡とその周辺遺跡の地理的・歴史的な位置付けを行う。②生物遺体群の検討を通じ、ヒトと植物、昆虫の関わりを明らかにする。③土器に付着した炭化物の年代測定を通じ、正確度の高い年代編年の標準を確立する。	4
	共同研究 (技術分野)	西本 豊弘	8名	三内丸山人の資源利用モデルの構築2 ①野生クリの収穫量を計測する。 ②資源利用を考えるうえで日常食品の交換なども視野に入れ、交換活動について、ヒスイと黒曜石に注目して考察を進める。	
	共同研究 (社会分野)	小山 修三	6名	円筒土器文化の地域性 集落構造、出土遺物の比較による生業の差異、精神文化に関する遺物の比較により、円筒土器文化圏の地域性を明かにし、その要因と変遷について考察を進める。	
	公募研究 (自然分野)	清川 繁人		三内丸山遺跡から出土したクルミの遺伝子工学的研究 三内丸山遺跡から出土したクルミと三内丸山遺跡周辺に現在生きているクルミの遺伝子を調査及び比較することにより、クルミの木の管理や現在のクルミと三内丸山遺跡から出土したクルミの系統を明らかにする。	
	公募研究 (技術分野)	永嶋 正春		三内丸山遺跡の漆文化に関する実証的研究 三内丸山遺跡における漆文化の在地性を検証するとともに、出土した漆製品の製作技術的な特質を明らかにする。	
	公募研究 (社会分野)	川崎 保		三内丸山遺跡出土石製装身具の流通・交易経路の解明 ①三内丸山遺跡出土の石製装身具について、考古学的分析及び非破壊的理化学的分析により、石材の原産地及び製作地を推定する。 ②三内丸山遺跡と同時期の石製装身具を同様に分析し、比較することによって、流通・交易経路を明らかにする。	

三内丸山遺跡特別研究推進事業研究概要

年度	区分	代表者	分担者	テーマ及び研究概要	年報
10	共同研究 (自然分野)	辻 誠一郎	8名	三内丸山遺跡における人と自然の交渉史 I ①青森平野の縄文海進は規模も大きくなく、広がりや期間も小さかったようである。 ②縄文時代前期中頃から中期中頃は自然を大々的に改変した生態系が成立していた。様々な植物を集中的に維持管理していたようである。 ③放射性年代の測定とその暦年補正の結果、三内丸山遺跡における人の居住は約5800年前から約4100年前までである。	3
	共同研究 (技術分野)	西本 豊弘	5名	三内丸山人の資源利用モデルの構築 ①季節ごとに対象とする魚を変えながら周年にわたって漁をしていた。 ②三内丸山遺跡周辺の前中期には多くの遺跡が見られるが、中期になるとその数が減ってくる。 ③クリを主体にした食生活をしていたとしても2000人あまりの扶養力がある。 ④三内丸山遺跡の食糧資源は2000人程度までの人口を十分に養えることが可能であり、集落のサイズを規定したものは別の要因であろう。	
	共同研究 (社会分野)	小山 修三	5名	土偶から見た縄文社会 ①土偶の廃棄には特定の場所が選ばれていた。 ②その廃棄場所は時期的に変化していたことが想定できる。 ③土偶は意図的に壊されたが、使用期間中は修理されていたと想定できる。	
	公募研究 (自然分野)	佐藤 洋一郎		縄文時代にウルシは栽培されていたか ①ウルシには中国の系統と日本の系統に分かれる。 ②三内丸山遺跡から出土した種子はウルシであり、日本の系統に近い。 ③ウルシの技術は中国とは独立して、縄文時代から日本にあった可能性がある。	
	公募研究 (技術分野)	小林 正史		縄文時代前期・中期の煮炊用土器の作り分けと使い分け ①前期の土器は野焼き時の火力が弱く、そのため耐久性が低かったと考えられる。 ②比較的短時間・低コストで大量の土器を造ったと考えられる。 ③炭化物付着が少ないことから、使用頻度が低かったと考えられる。	
	公募研究 (社会分野)	中村 大		埋葬方法の類型とその配置から見た縄文社会 東北北部の墓制の変遷から見ると、縄文社会は不平等な社会であり、社会の階層化が進んできた社会であると考えられる。	